



YOUNG MKII

HIGHEST RESOLUTION DIGITAL-TO-ANALOG CONVERTER
DIGITAL PREAMPLIFIER



YOUNG MkIII をご購入いただき、ありがとうございます。この製品は、独自の特徴を数多く備えた非常に高品質な DA コンバーターで、あらゆるハイファイ・システムにおいて最高のパフォーマンスを発揮するように設計されています。

YOUNG MkIII は専用の技術的・機能的ソリューションを備えています。MQA® デコーダーを備えたアシンクロナス USB インターフェース、パッシブ・アンチエイリアス・フィルター、オフセット補正された I/V 変換、パフォーマンスを向上させるために高出力を供給する能力、使い易さ、信頼性などです。さらに、YOUNG MkIII はプリアンプの数多くの機能も併せ持っていますので、パワーアンプに直結してご使用になることをお奨めします。

YOUNG MkIII はデジタル入力とアナログ入力を完備しているので、あらゆる機器を接続することができます。AptX® デコーダーを備えた Bluetooth® レシーバーも装備しているので、スマートフォンやタブレットから高品質な音楽を直接ストリーミングすることができます。

バランス出力と付属のシングルエンド接続用アダプターによって、あらゆる種類のパワーアンプを駆動することができます。出力レベルの上限を 2 つの数値に設定することができるので、YOUNG MkIII をプリアンプとして使用すれば、最高に効率の低い真空管パワーアンプでも最高出力を生み出すことができます。

フル機能のリモコンによって、YOUNG MkIII のみならず、USB で接続されたコンピューター上で稼働するオーディオ再生ソフトの大半、さらには M2TECH の Rockstars シリーズの製品をもすべてコントロールすることができます。

YOUNG MkIII をご購入いただいたみなさまのご期待にお応えすることができるかと確信しています。お好きな音楽がかつて経験したことのない音で聞こえることでしょう。さあ、まったく新しい音の体験への心の準備をしてください！

ナディア・マリノ (CEO)

将来必要になることがあるかもしれませんので、ご購入になった YOUNG MkIII のシリアルナンバーとご購入情報をここにひかえておいてください。

シリアルナンバー：

ご購入年月日：

ご購入店名：

注意：万一保証が必要になった場合には、ご購入を証明するもの（領収書など）を提示していただくことが必要です。

MQA® ロゴは MQA Limited の商標です。©MQA Limited 2016。

Bluetooth® マーク及びロゴは Bluetooth SIG, Inc. の登録商標であり、M2TECH Srl はこれらをライセンス契約で使用しています。他の商標及び商号はそれぞれの所有社に帰属します。

Qualcomm aptX® は Qualcomm Technologies International, Ltd. の製品です。

目次

- 第1章. 開封と設置
- 第2章. フロント・パネル (前面)
- 第3章. バック・パネル (背面)
- 第4章. リモコン
- 第5章. 接続して電源を入れる
- 第6章. ユニットの清掃
- 第7章. YOUNG MkIII を使う
 - 7.1. ボリュームの設定
 - 7.2. ミューティングの切り替え
 - 7.3. 信号の位相 (フェーズ) を選択する
 - 7.4. 入力ソースの選択
 - 7.5. メニューの操作
 - 7.5.1. バランスの設定
 - 7.5.2. ディスプレイのバックライト: ディスプレイのバックライトを設定する
 - 7.5.3. PCM フィルター: PCM フィルターを選択する
 - 7.5.4. DSD フィルター: DSD フィルターを選択する
 - 7.5.5. 出力レベル: 出力レベルの上限を設定する
 - 7.5.6. ボリュームのステップ: ボリュームのステップを選択する
 - 7.5.7. ボリューム・モード: ボリューム・モードを選択する
 - 7.5.8. 電源投入時のボリューム: 電源投入時のボリュームを選択する
 - 7.5.9. 自動電源 OFF: 自動電源 OFF を設定する
 - 7.5.10. スタンバイ LED: フロント・パネルの LED の表示を設定する
 - 7.5.11. 自動電源 ON: 電源投入時の YOUNG MkIII の状態を設定する
 - 7.5.12. リモコンによる電源の ON/OFF: YOUNG MkIII がリモコンの電源 ON/OFF コマンドを受けるか受けないかを設定
 - 7.5.13. Bluetooth®: Bluetooth® レシーバーを有効または無効にする
 - 7.5.14. Bluetooth® のペアリング: Bluetooth® のペアリングを有効にする
 - 7.5.15. Bluetooth® 情報: Bluetooth® のインターフェース情報にアクセスする
 - 7.5.16. ファームウェアの改訂: ファームウェアの改訂情報にアクセスする
 - 7.5.17. デフォルト設定: 工場出荷時の設定にもどす
 - 7.6. Bluetooth® 機器を接続する
 - 7.7. 電源モードとスタンバイ
- 第8章. デジタル・ソースとしてコンピューターを使う
 - 8.1. Apple OSX でのプラグ・アンド・プレイ
 - 8.1.1. Mac での DSD ファイル再生
 - 8.2. Linux でのプラグ・アンド・プレイ
 - 8.2.1. Linux での DSD ファイル再生
 - 8.3. Windows で YOUNG MkIII を使う
- 第9章. YOUNG MkIII のリモコンを使ってコンピューターの再生ソフトをコントロールする
- 第10章. YOUNG MkIII のファームウェアをアップデートする
- 第11章. YOUNG MkIII を Bluetooth® インターフェースでコントロールする
- 第12章. 仕様

第1章 . 開封と設置

YOUNG MkIII の入った箱をテーブルの上に置き、シールを剥がす、もしくは切って外箱を開けます。内箱を取り出してふたを開けます。以下の内容物が入っています。

- YOUNG MkIII 本体× 1
- 電源 (AC) アダプター× 1
- USB ケーブル× 1
- XLR-RCA 高品質変換アダプター× 2
- リモコン× 1
- 乾電池× 2

上記のうち、付属品に不足がある場合には、ご購入店にご連絡ください。

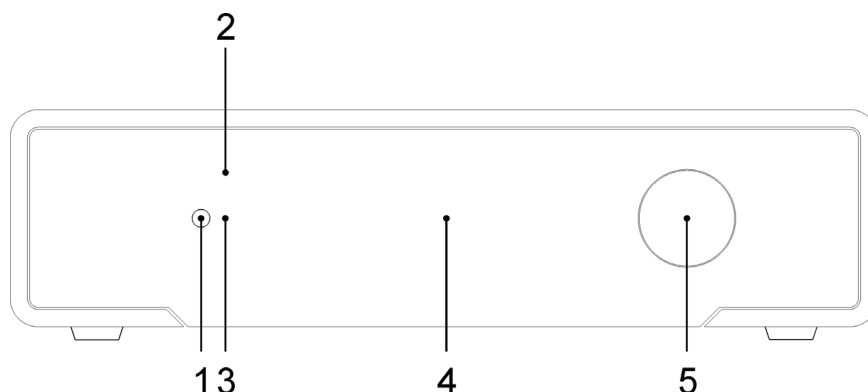
YOUNG MkIII を箱から取り出したら、熱の当たらないしっかりとしたテーブルに置いてください。本体に直射日光が当たらないようにしてください。通気のために、ユニットの周囲には十分に空間を確保してください。

YOUNG MkIII はきわめて効率の高い機器です。したがって、稼働中にもそれほどの発熱はしませんが、それでもユニットの周囲には通気のための十分なスペースを確保することをお奨めします。また、主としてリモコンで操作することになりますので、リモコンの赤外線がユニットのフロント・パネルに届きやすくなるように設置することをお奨めします。

煙、湿気、埃、液体のかからないところにユニットを設置してください。間違った使い方をされた場合は保証の対象外となります。

厚手のカーペットの上や、箱の中、家具の内側には設置しないでください。カーテンに近いところに設置するのも避けてください。

第 2 章 . フロント・パネル (前面)



1) 電源 ON/OFF ボタン、ミュート・ボタン、「メニューから出る」ボタン：YOUNG MkIII の電源が OFF の状態で、電源を入れる時にこのボタンを押します。電源が ON の状態で、メニューにアクセスしていない時は、短押しでミュートの ON/OFF を切り替えることができます。メニューにアクセスしている時に短押しすると、メニューで設定した内容を無効にしてメニュー画面から出ることができます。電源が ON の時に長押しすると、電源が OFF になります。

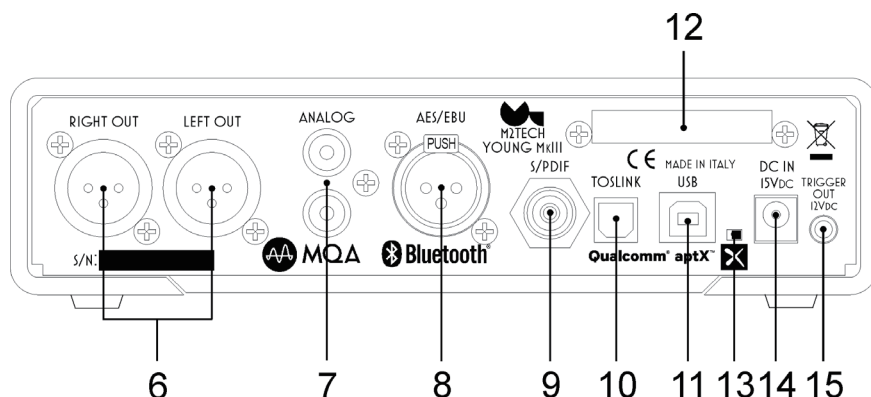
2) スタンバイ LED：YOUNG MkIII がスタンバイ・モードの時にこの LED が点滅します。この状態にある時には、付属のリモコンで本体のスイッチを ON にすることができます。ファームウェアのアップデートが進行中は、この LED は点灯したままになります。

3) リモコン信号受信器：ここにリモコンを向けて操作してください。

4) ディスプレイ：多機能な OLED ディスプレイです。通常の動作中には、ボリューム・レベル、選択した音源、サンプリング周波数（アナログ音源の場合を除く）、フォーマット（アナログ音源の場合を除く）、ミュートや位相（設定してある場合）の状態を表示します。メニューにアクセス中は、選択したメニュー項目と現在値を表示します。

5) エンコーダー：このエンコーダーによって、メニューへのアクセスと操作、入力の選択、ボリュームの設定をすることができます。回して押すという操作方法です。詳細は第 7 章をご覧ください。

第3章. バック・パネル (背面)



6) アナログ出力端子: 3 ピンの XLR コネクターの付いたバランス・ケーブルで YOUNG MkIII とアンプまたはプリアンプを接続します。アンプがシングルエンドの入力端子しか備えていない場合は、付属の高品質 RCA アダプターを XLR コネクターに挿入して、RCA プラグの付いた同軸ケーブルでアンプに接続することができます。YOUNG MkIII は金メッキの XLR オス・コネクターを備えています。

注意: ピン配列は、ピン 1 = グラウンド、ピン 2 = ホット、ピン 3 = コールドです。アンプ側がピン 3 = ホット、ピン 2 = コールドの場合は、接続が逆になるので、この場合は YOUNG MkIII の「PHASE (位相)」機能を使って絶対位相 (アブソリュート・フェーズ) を得ることができます (詳細は第 7 章をご覧ください)。

7) アナログ入力端子: シングルエンド・ライン・レベル出力端子を備えた機器を接続します。RCA メス・ステレオコネクターです。

8) AES/EBU デジタル入力端子: 110 Ω のプロ用 AES/EBU 出力端子を備えた機器を接続します。3 ピン XLR メスコネクターです。

9) S/PDIF 入力端子: 75 Ω の S/PDIF 出力端子を備えた機器を接続します。RCA メス・コネクターです。

10) TOSLINK™ 光デジタル出力端子: TOSLINK™ デジタル出力端子を備えた機器を接続します。TOSLINK™ 端子です。

11) USB ポート: 付属の USB ケーブルでコンピューターの USB2.0 ポートに接続します。USB・B タイプ・メスコネクターです。

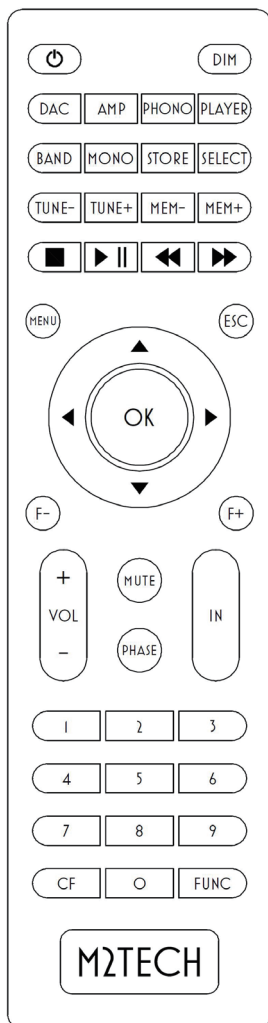
12) Bluetooth® モジュール受信アンテナ: このアンテナを金属やカバーで覆わないでください。

13) 電源モード・スイッチ: 電源が入ったらすぐに稼働状態にするかしないかを選択します。

14) 電源入力端子: 付属の AC アダプターを接続します。先端が+極の 5.5/2.1mm ジャックです。

15) トリガー出力端子: 他の機器の 12V DC に対応したトリガー入力端子に接続します。3.5 ミリ・ジャックです。

第4章. リモコン



YOUNG MkIIIにはフルリモコンが付属しており、これを使ってすべての設定を行うことができます。また、M2TECHのRockstarsシリーズの他の製品もコントロールすることができます。

YOUNG MkIIIにコマンドを送ると、「DAC」キーが緑色に点滅することに注意してください。他のキー（AMP、PHONO、PLAYERなど）が点滅する場合は、YOUNG MkIIIはコマンドを受け取っていません。この場合は、「DAC」キーを押して正しいコマンド・コードがYOUNG MkIIIに送られるようにしてください。

以下は各キーの簡易説明です。

Standby（左上のキー）：このキーを長押ししてYOUNG MkIIIをスタンバイの状態にしたり、スタンバイを解除したりします。

DIM：ディスプレイの明るさを設定します。

DAC：DACのシステムコードを使ってコマンドを送るようリモコンに指示します。

PHASE：アナログ出力の位相（フェーズ）を切り替えます。

MENU：メニューにアクセスします。

ESC：設定を変えずにメニューを出ます。

カーソルキー：メニューを選択します。

OK：設定の変更を保存してメニューを出ます。

VOL+/VOL-：ボリュームを設定します。

MUTE：ミュート（ON/OFF）を切り替えます。

IN+/IN-：入力を選択します。

Player操作キー（■や▶の付いたキー）：YOUNG MkIIIに接続されたコンピュータ上のオーディオ再生ソフトをコントロールする際に使用します。以下のコマンドを送信することができます。play/pause、stop、next track（次のトラック）、previous track（前のトラック）。

第5章 . 接続して電源を入れる

警告 : YOUNG MkIII と他の機器の接続は、すべてのユニットの電源が OFF の状態か、接続されていない状態の時に行わなければなりません。そうしないと、YOUNG MkIII や他の機器に損傷が生じることがあります。

第3章の「バック・パネル」をご参照ください。

デジタル再生機器 (CD/SACD/DVD プレーヤー、衛星放送レシーバー、DAB レシーバー [ヨーロッパ及びオーストラリアのデジタルラジオ放送受信機] など) 及びアナログ機器を YOUNG MkIII の入力端子 (図2の7~11) に接続します。Bluetooth® の接続はユニットの電源を ON にした後に行います。

コンピューターを YOUNG MkIII の USB 入力端子 (図2の11) に接続します。

YOUNG MkIII をプリアンプとして使用したい場合は、YOUNG MkIII のアナログ出力端子 (図2の6) とパワーアンプの入力端子を接続します。これ以外の場合は、YOUNG MkIII のアナログ出力端子 (図2の6) とプリメインアンプまたはプリアンプの入力端子を接続します。

YOUNG MkIII のトリガー出力端子と 12V DC を受け入れ可能な機器のトリガー入力端子を接続します。これによって、YOUNG MkIII の電源を入れると、接続された機器の電源も ON にすることができます。

付属の AC アダプターを YOUNG MkIII の電源入力端子 (図2の14) に接続します。

AC アダプターを家庭の電源コンセントに接続します。

YOUNG MkIII のフロント・パネルのボタン (図1の1) を押して電源を ON にします。

注意 : YOUNG MkIII をプリアンプとして使用している場合は、まず YOUNG MkIII の電源を ON にした後パワーアンプの電源を ON にするように心がけてください。電源を OFF にする場合は、まずパワーアンプを OFF にした後 YOUNG MkIII を OFF にします。YOUNG MkIII のトリガー出力を使えば、これが自動的に行われます。

第6章 . ユニットの清掃

YOUNG MkIII を清掃する際は、やわらかくてわずかに湿った布を使用してください。アルコールその他のクリーニング液は、ユニットを損傷する可能性があるため、使用しないでください。

ユニットの内部に液体をこぼしたりしないでください。どのようなタイプの液体も、ユニットの内部に入った場合は、保証の対象外となります。

損傷を避けるために、表示パネルに強い力を加えないでください。

第7章 . YOUNG MkIII を使う

YOUNG MkIII のスイッチを入れて使用できるようになるまでには少し時間がかかります。その間に YOUNG MkIII は、すべての接続や設定が定格どおりになっているかをチェックするからです。この状態の時には、ディスプレイにモデル名が表示されます。



YOUNG MkIII が使用できる状態になると、ディスプレイに全般的な操作情報が表示されます。選択した音源、フォーマット（アナログ音源の場合を除く）、ボリューム・レベル、設定された位相などです。ミュート中はボリューム・レベル・ランプが点灯します。



7.1. ボリュームの設定

ボリュームを設定するには、エンコーダー（図1の5）を回すか、リモコンの「VOL+」と「VOL-」のキーを押します。

ボリュームは -70dB（最小）から 0dB（最大）の範囲で 0.5dB ステップで設定できます。

選択したディスプレイ・モードに応じて、ボリュームは dB またはスケール（「0」が最小）でディスプレイに表示されます。

7.2. ミュートिंगの切り替え

YOUNG MkIII は、エンコーダーを使わなくても音量を瞬時に 20dB 下げることのできるミュート機能を持っています。再生中にちょっと人と話をする、トラックを変える、電話に出るなど、一時的に音量を下げる必要がある時に便利な機能です。

ミュートINGの ON/OFF は、フロント・パネルの左のボタン（図1の1）を短押しして切り替えることができます。ミュートINGが有効な時には、ボリューム・レベルが点灯します。

ミュートINGを解除するには、フロント・パネルのボタンをもう一度押すだけです。元のボリューム・レベルに瞬時に戻り、ボリューム・レベルが点灯しなくなります。

リモコンの「MUTE」キーを押すことでもミュートINGの ON/OFF の切り替えができます。

警告：ミュートINGを有効にする時には、ボリューム・レベルに注意してください。ボリュームを上げすぎたままにしていると、ミュートINGが解除された時にボリュームが大きすぎてスピーカーや耳に損傷を与える可能性があります。ミュートING・モードの時、そしてまた YOUNG MkIII の電源を ON/OFF する時は、常にボリュームを下げることをお奨めします。

7.3. 信号の位相（フェーズ）を選択する

YOUNG MkIII はアナログ出力の位相を選択することができます。この機能は様々な点で有益です。たとえば、レコーディングの中には位相が逆になっているものがあることが知られています。こういった場合は、DAC に逆の位相を送って絶対位相を得ることができます。また、バランス接続にも標準仕様が2つあります。日本で設計されたか、欧米で設計されたかによって異なるのです。日本製の機器を欧米の機器に接続する時は、位相を反転させなければなりません。この場合も位相を逆にすることで絶対位相を得ることができます。

位相を反転させたり元に戻したりするには、リモコンの「PHASE」キーを押します。位相が反転すると、ディスプレイに「PH」と表示されます。

7.4. 入力ソースの選択

YOUNG MkIII は様々な入力端子を備えているので、様々な機器を接続して聴くことができます。

入力を選択するには、エンコーダーを短押しします。現在選択しているソースがディスプレイに表示されます。選択したいソースが表示されるまでエンコーダーを回し、表示されたらエンコーダーを押して確定します。これで新しいソースが選択されました。

操作中に気が変わって、現在のソースをそのまま続けたい時は、フロント・パネル左のボタン（図1の1）を押すだけでOKです。また、数秒間何もしないままにしておくと、YOUNG MkIII は何も変更せずに元の状態に戻ります。

7.5. メニューの操作

YOUNG MkIII は様々なパラメーターを設定することができますが、その中にはメニューにグループ分けされているものがあり（あまり頻繁に変更されないもの）、これはフロント・パネルのボタンとリモコンの専用キーの両方で操作することができます。

メニューにアクセスするには、エンコーダーを少なくとも2秒以上長押しするか、リモコンの「MENU」キーを押します。

エンコーダーの短押しを繰り返す、またはリモコンの「▲」キーと「▼」キーを押すことで、メニュー項目をスクロールすることができます。

希望のメニュー項目が表示されたら、エンコーダーを回して、またはリモコンの「◀」キーと「▶」キーを使って、希望の数値を選択します。

希望の数値が表示されたら、エンコーダーを短押しして、またはリモコンの「OK」キーを押して、確定します。

操作中に気が変わって、現在の数値をそのまま維持したい時は、フロント・パネル左のボタン（図1の1）、またはリモコンの「ESC」キーを押してメニューを出ることができます。

以下にメニューの全項目を説明します。

7.5.1. バランスの設定

YOUNG MkIII は +/-6dB の範囲で、0.5dB ステップでバランス（左右のチャンネルの音量）を設定することができます。バランスを設定するには、メニューの第一階層の項目にアクセスします。



エンコーダーを反時計回りに回す、またはリモコンの「◀」キーを押すと、左チャンネルの方が音量が大きくなります。同様に、エンコーダーを時計回りに回す、またはリモコンの「▶」キーを押すと、右チャンネルの方が音量が大きくなります。

選択したバランス設定を確定する、またはキャンセルする場合は、7.5. の手順に従って操作します。

エンコーダーを回す、またはリモコンの矢印キーを押して変更したバランス設定は、リアルタイムで耳で確認することができます。新しく設定されたバランスは直ちにメモリーに保存されます。

7.5.2. ディスプレイのバックライト : ディスプレイのバックライトを設定する

YOUNG MkIII のディスプレイ・バックライトは、2 通りのモードに設定することができます。「AUTO OFF (自動 OFF)」と「ALWAYS ON (常時 ON)」です。「AUTO OFF」モードでは、ディスプレイは、コマンド実行時以外は常に OFF の状態になります。「ALWAYS ON」モードを使うと、ディスプレイは常に ON の状態になります。

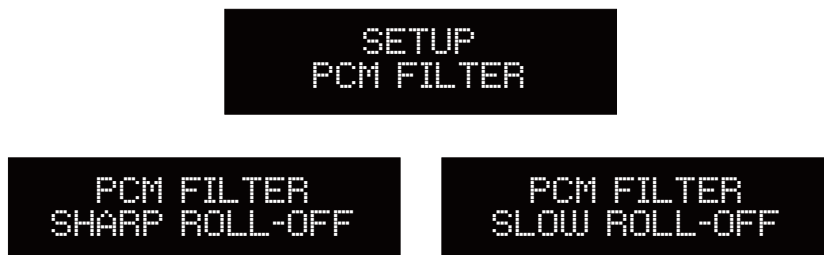
バックライト・モードを設定するには、メニューの第一階層にアクセスするか、リモコンの「DIM キー」を使います。



設定はリアルタイムで直ちに結果を見ることができます。「DIM」キーを使うと、現在の設定の状態を示すメッセージが短時間ディスプレイに表示されます。

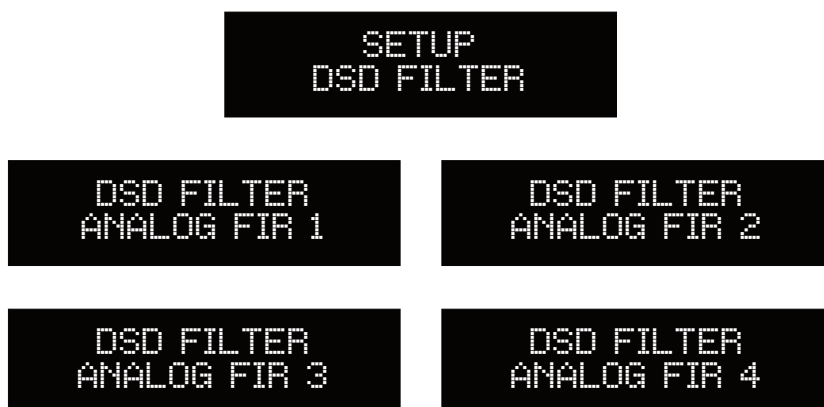
7.5.3. PCM フィルター：PCM フィルターを選択する

YOUNG MkIII では、PCM 用に 2 つのアンチエイリアス・フィルターを選択することができます。ひとつはシャープなロールオフとエイリアスの大きな減衰性能を備えたもの、もうひとつは緩やかなロールオフ、より良好な位相、エイリアスの小さな減衰性能を備えたものです。



7.5.4. DSD フィルター：DSD フィルターを選択する

YOUNG MkIII では、DSD 用にカットオフ周波数とスプリアス減衰がそれぞれ異なる、4 つの FIR フィルターを選択することができます。



7.5.5. 出力レベル：出力レベルの上限を選択する

YOUNG MkIII は通常の DAC(プリメインアンプやプリアンプの入力端子に接続される場合) として使うことも、プリアンプ(パワーアンプに接続される場合) として使うこともできます。この場合、接続に応じて YOUNG MkIII の出力レベルを変更する必要があります。多くのパワーアンプは、最高の出力レベルに達するには、通常の DAC によって供給されるよりも高い電圧を必要としますが、一方、その電圧ではプリアンプには高すぎるからです。

YOUNG MkIII は、バランス・モードで 10Vrms の出力電圧を生み出すことができます。これは最高に駆動のむずかしいシングルエンドの真空管アンプを駆動するにも十分すぎるほどの電圧です。これをそのままプリアンプやソリッドステート・パワーアンプに使うと、常にボリュームを低く保たなければならなくなります。これでは、YOUNG MkIII の低ノイズ性能とダイナミックレンジの大部分が無駄になってしまいます。

そのため、YOUNG MkIII は最大出力レベルをメニューで選択できるようになっています。2つの数値が選択できます。バランス・モードで 5Vrms (シングルエンドでは 2.5Vrms になります) と、バランス・モードで 10Vrms (シングルエンドでは 5Vrms になります) です。10Vrms の方は、感度の低いパワーアンプを駆動するのに適しています。5Vrms の方は、YOUNG MkIII をプリアンプに接続して使用する場合、あるいは高感度のパワーアンプを駆動する場合に最適です。



7.5.6. ボリュームのステップ：ボリュームのステップを選択する

YOUNG MkIII の出力レベルの調節幅は、1dB ステップまたは 0.5dB ステップの 2 通りに設定することができます。1dB ステップに設定すると、幅広い範囲を素速く上下することができます。0.5dB ステップに設定すると、ステップ数が倍になるので、上下は遅くなりますが、細かな調節をすることができます。



7.5.7. ボリューム・モード：ボリューム・モードを選択する

YOUNG MkIII のボリューム表示には2つの方式があります。dB表示とステップ表示です。さらに、ボリュームを現在値に固定することもできます（これは YOUNG MkIII がプリアンプやプリメインアンプに接続されている場合に有益です）。

dB表示モードでは、最大レベルが0dBで、「-」の付いた数値が大きくなるほどボリュームが小さくなります。たとえば、「-15dB」は「-20dB」よりもボリュームが大きいことを示します。

ステップ表示モードでは、最大レベルが192で、数値（+）が減少するほどボリュームが小さくなります。たとえば、「40」は「30」よりもボリュームが大きいことを示します。

注意：どちらかのモードから他のモードに切り替えてもボリューム自体は変わりません。YOUNG MkIII は0dB～-96dBの範囲で0.5dBステップでボリュームを設定することができます。表示モードを変えたら、表示が変わるだけです。

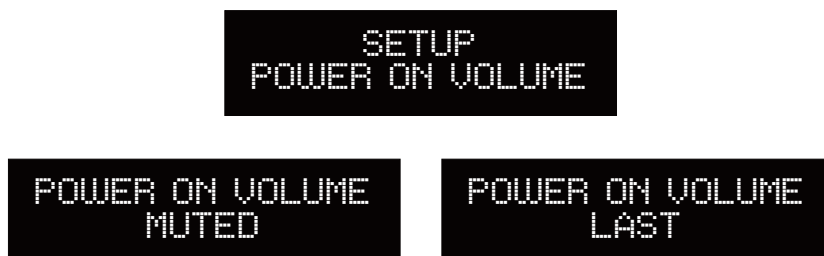


以下に様々なボリューム表示を示します。



7.5.8. 電源投入時のボリューム：電源投入時のボリューム設定を選択する

YOUNG MkIII の電源投入時にボリュームをどの状態に設定するかを選択することができます。最低（消音）または、前回の最後に設定したボリュームのどちらかを選択することができます。



7.5.9. 自動電源 OFF：自動電源 OFF を設定する

節電に関する EU の基準に準拠し、YOUNG MkIII はアイドリング時（信号が一定時間ない場合）には自動的に電源を切る機能を備えています。アイドリング時とは、ボリュームやミュートなどのコントロールを一切しない経過時間を指します。

自動電源 OFF までの時間は、10 分～ 240 分の範囲で 10 分ステップで設定することができます。この機能を無効にすることもできます。



7.5.10. スタンバイ LED：フロント・パネルの LED の表示を設定する

YOUNG MkIII のフロント・パネルの LED 表示（図 1 の 2）は、好みに合わせて 3 通りのモードに設定することができます。

- ・ ON：YOUNG MkIII がスタンバイ状態の時に LED が常に点灯
- ・ FLASHING：YOUNG MkIII がスタンバイ状態の時に LED が点滅
- ・ YOUNG MkIII がスタンバイ状態の時に LED が OFF



7.5.11. 自動電源 ON：電源投入時の YOUNG MkIII の状態を設定する

YOUNG MkIII は、電源コードを接続した（図 2 の 14）時の動作を設定することができます。

コードを接続すると直ちに電源が ON になって使用できるようにするか、フロント・パネルのボタン（図 2 の 1）を押すまで電源が入らないようにするかを、選択することができます。

YOUNG MkIII の電源の状態は、バック・パネルの電源モードスイッチ（図 2 の 13）とこのメニューを組み合わせて操作し、設定します。詳細は、7.7. をご参照ください。



7.5.12. リモコンによる電源の ON/OFF：YOUNG MkIII がリモコンの電源 ON/OFF コマンドを受けるか受けないかを設定



7.5.13. Bluetooth®：Bluetooth® レシーバーを有効または無効にする

Bluetooth® インターフェースを有効にしたり無効にしたりすることができます。以下のメニューにアクセスして実行します。



7.5.14. Bluetooth® のペアリング：Bluetooth® のペアリングを有効にする

スマートフォンなどの Bluetooth® ホストを YOUNG MkIII に接続することができます。これを行うには、YOUNG MkIII をペアリング・モードにしなければなりません。これによって、ホストがオーディオ・リンクを探して検知し、接続することができるのです。

ペアリング・モードは、有効になって3分間動作した後に、自動的に解除されます。この3分以内に、ペアリングを無効にすることもできます。



以下は、(左) ペアリング・モードが有効になり、YOUNG MkIII がホストとのペアリングを待っている状態、(中) ペアリングが成功した直後の状態、(右) ペアリングが無効になった状態の、各ディスプレイ表示です。



ペアリングされたホストは、工場出荷時の設定（メニューの「DEFAULT」の各項目をご参照ください）に戻すまでは、すべて Bluetooth® インターフェースに保存されます。

7.5.15. Bluetooth® 情報：Bluetooth® のインターフェース情報にアクセスする

YOUNG MkIII の Bluetooth® インターフェースの情報を知っておくと、役に立つことがあるでしょう。Bluetooth® インターフェースは、ご使用のスマートフォンのアクセス可能な Bluetooth® 機器一覧中で、YOUNG MkIII を確認するために使用することができます。

実際には、「ABCD」の4文字は YOUNG MkIII 専用の数値に置き換えられます。



7.5.16. ファームウェアのバージョン：ファームウェアのバージョン情報にアクセスする

YOUNG MkIII は様々なマイクロ・コントローラーが相互に作用し合って正しく動作するように作られた、複雑な機器です。必要に応じて、YOUNG MkIII の USB ポート経由で USB コントローラーのファームウェアをアップデートすることができるようになっています。また、M2TECH が内蔵コントローラーの全般的なアップデートをリリースすることもあります。アップデートが必要かどうかを確認するためには、YOUNG MkIII の現在のファームウェアのリリース情報にアクセスする必要があります。これはメニュー中のファームウェアのバージョンに関連する項目にアクセスして行います。

フロント・パネルのディスプレイに表示された内容を変更することはできません。リモコンでも何も変更できません。第 10 章で説明するファームウェアのアップデートでのみ変更が可能になります。

```
SETUP
FIRMWARE REV.
```

```
FW REV FPGA: 100
USB: 100 UC: 100
```

7.5.17. デフォルト設定：工場出荷時の設定に戻す

工場出荷時の設定に戻したい場合は、以下のメニューにアクセスして実行します。これまでの設定はすべて失われてしまいますので、注意してください。

```
SETUP
DEFAULT
```

```
DEFAULT
ARE YOU SURE?
```

```
DEFAULT
NO
```

7.6. Bluetooth 機器を接続する

YOUNG MkIII は、aptX® デコーディングの機能を持った Bluetooth® レシーバーを装備しています。ストリーミングや操作のためにスマートフォンなどの Bluetooth® 機器を接続したい場合は、メニューにアクセスしてペアリングを有効にしなければなりません。ペアリングが有効になると、どのような機器でも 3 分以内にペアリングして接続することができます。ペアリングの状態はディスプレイに表示されません。

同時に様々なホストを接続することができますが、YOUNG MkIII に音楽をストリーミングすることができるのは一度にひとつだけです。ひとつのホストがストリーミングを実行している時は、接続されている他のホストはユニットをコントロールすることができます。ストリーミングを実行しているホストがない場合は、すべてのホストが（早いもの順で）ストリーミングを開始できる状態にあります。

7.7. 電源モードとスタンバイ

リア・パネルのスイッチ(図 2 の 13)の設定に応じて、YOUNG MkIII はフロント・パネルの左側のボタン(図 1 の 1) を長押しして電源を切ることができます。数秒後にユニットの電源が OFF になり、電流消費がゼロになります。

リモコンのキーで YOUNG MkIII をスタンバイ状態にすることも可能です。この場合は、YOUNG MkIII は、フロント・パネルのスイッチを OFF にした時と同じように動作を停止しますが、メイン・コントローラー、Bluetooth® レシーバー、リモコン受光機能は機能しているので、最低限の電流を継続して消費しています。したがって、リモコンからの電源再開コマンド（「standby」キーをもう一度押す）、ペアリングされた Bluetooth® 機器上の app からの電源再開コマンド、あるいはフロント・パネルのボタンによる何らかの操作があれば、いつでも電源を再開します。

スタンバイ・モードは、メニュー（7.5.10.）で特定の設定がされていなければ、フロント・パネルに LED（図 1 の 2）で表示されます。

注意：電源が OFF の時にも、YOUNG MkIII にはごくわずかな電流が流れていますが、これは実質的には無視できるレベルです。

注意：リア・パネルの電源モード・スイッチが「immediate activation」に設定されている時は、YOUNG MkIII の電源を完全に OFF にすることはできません。フロント・パネルのボタンを長押ししても、スタンバイ・モードになるだけです。

電源モード・スイッチが電源ソケットに近い側に設定されていると、YOUNG MkIII は、電源が投入されると直ちに稼働状態になります。これは、メニューの「自動電源 ON」が有効になっているかどうかによって異なります。

電源モード・スイッチが電源ソケットから遠い側に設定されていると、YOUNG MkIII は、電源が投入されてもすぐには稼働状態にはならないので、フロント・パネルのボタンを押して、YOUNG MkIII のスイッチを ON にしなければなりません。

第 8 章 . デジタル・ソースとしてコンピューターを使う

YOUNG MkIII は様々なデジタル・ソース (CD プレーヤー、DVD プレーヤー、Blu-ray プレーヤー) をそのまま接続することができますが、USB ポート経由でコンピューターと接続するには、いくつかのコンフィギュレーションの設定が必要です。

幸いなことに YOUNG MkIII は、USB Audio Device Class 2 に対応した USB 2.0 インターフェースを装備しています。したがって、Apple と Linux のコンピューターは YOUNG MkIII をネイティブでサポートしているということであり、特別なドライバーなど不要で、プラグ・アンド・プレイで YOUNG MkIII を認識します。これに対して、Microsoft の OS を搭載したコンピューターは、適合したドライバーを必要とします。M2TECH の以下のウェブサイトからダウンロードすることができます。

<http://m2tech.jp/driver.html>

8.1. Apple OSX でのプラグ・アンド・プレイ

先述したように、YOUNG MkIII は USB Audio Device Class 2 準拠の USB インターフェースを装備し、Apple OSX 10.6.4 以降をネイティブでサポートしているため、ドライバーは不要です。YOUNG MkIII と Mac を同梱の USB ケーブルで接続すれば、YOUNG MkIII は Mac に認識され、オーディオ出力デバイス一覧に追加されます。

8.1.1. OSX での DSD ファイル再生

YOUNG MkIII は、DSD フォーマットで録音された音楽を、ネイティブでも DoP でも再生することができます。OSX はネイティブ DSD をサポートしていませんが、DoP はサポートしています。DSD データを YOUNG MkIII に DoP で伝送することができるプレーヤー・ソフトを使用しなければなりません。

8.2. Linux でのプラグ・アンド・プレイ

先述したように、YOUNG MkIII は USB Audio Device Class 2 準拠の USB インターフェースを装備していますが、これは Linux の ALSA 1.0.24 リリース以降でネイティブでサポートされています。

注意：Linux のディストリビューションは多岐にわたっており、大きくカスタマイズされたものも多いのが現状なので、カーネルと ALSA のバージョンがネイティブで USB Audio Device Class 2 のサポートに適合しているかをチェックする必要がある場合があります。疑わしい場合には、ご使用の Linux のディストリビューションの作成者に詳細を問い合わせてください。

Apple OSX の場合と同じように、Linux でも YOUNG MkIII を出力デバイスとして選択する必要があります。これは「audio management」ウィンドウにアクセスして様々なパラメーターを設定することで実行できます。

8.2.1. Linux での DSD ファイル再生

DSD オーディオ・ファイルが再生できるようになったのはごく最近のことなので、ご使用のプレーヤー・ソフトが DSD ファイルを再生することができないということがあります。おそらくは、最新のバージョンなら再生することができるかもしれませんが、最新のリリースがコンピューターにインストールされていないということもあるでしょう。たとえば、Linux 環境下でいちばん多く使われている MPD プレーヤーは、リリース 0.17 以降になってやっと DSD をサポートするようになりました。ご使用のプレーヤー・ソフトが DSD をサポートしていることを確認して、そのプレーヤー・ソフトの作成者のマニュアルを参照するか、DSD を確実にサポートしていると考えられるプレーヤー・ソフトをインストールしてください。

8.3. Windows で YOUNG MkIII を使う

先述したように、現在のところ Microsoft の OS は USB Audio Device Class 2 をサポートしていません。したがって、Windows コンピューターに YOUNG MkIII を接続して音楽ファイルを聴くためには、ドライバをインストールする必要があります。

Windows のドライバは ASIO に対応しているので、ネイティブ DSD をサポートしています。

注意：YOUNG MkIII は USB 接続されたコンピューター上で稼働するプレーヤー・ソフトをリモコンで操作する HID (Human Interface Device) インターフェースを備えています (第 9 章をご参照ください)。そのため、Windows XP では互換性の問題が生じます。ドライバをインストールする前に、OS を Windows XP よりも新しいバージョンにアップデートされることを強くお勧めします。

第 9 章 . YOUNG MkIII のリモコンを使ってコンピューターの再生ソフトをコントロールする

YOUNG MkIII の USB インターフェースは HID (Human Interface Device) プロトコルを備えているので、YOUNG MkIII が接続されているコンピューター上の再生ソフトにコマンドを送信することができます。使用者から離れた場所にオーディオ・システムがあり、その近くにコンピューターが置かれている時には、この機能が役に立ちます。YOUNG MkIII のリモコンで操作することができるからです。

リモコンには「start」、「pause」、「stop」のキーと、スキップ (次の曲に進む、前の曲に戻る) のキーが備えられています。

この機能は、すべての再生ソフトや OS (様々なバージョンを含む) で利用できるわけではありません。したがって、使用している再生ソフトや OS が HID に対応しているかどうかは、ご自身で確認してください。

第 10 章 . YOUNG MkIII のファームウェアをアップデートする

7.5.16. で述べているように、YOUNG MkIII の USB コントローラーのファームウェアを必要に応じてアップデートすることができます。詳細については、M2TECH のサポートにご連絡ください。

YOUNG MkIII の他のコントローラー・ファームウェアは、工場ではアップデートできません。M2TECH がアップデートのリリースを発表した場合は、7.5.16. で述べられているファームウェア・リリース情報を取得して、M2TECH のサポートにご連絡ください。

警告:YOUNG MkIII の USB コントローラーのファームウェアを、インターネット上で見つけることのできるファームウェアでアップデートしようとしないでください。認定されていないアップデートを行うと、YOUNG MkIII が誤動作したり故障したりし、保証の対象外となります。

第 11 章 . YOUNG MkIII を Bluetooth® インターフェースでコントロールする

Android のスマートフォンをご使用の場合、Google Play で利用できる M2TECH 開発の app によって、YOUNG MkIII をコントロールしたり、すべてのパラメーターを設定したりすることができます。

下の QR コードをダウンロードしてご使用の Android 機器に直接 app をインストールしてください。



第 12 章 . 仕様

PCM サンプリング周波数:	USB 接続時 44.1 to 384kHz、MQA S/PDIF、AES/EBU 接続時 44.1kHz to 192kHz
PCM ビット数:	USB 接続時 16 to 32 bits、MQA S/PDIF、AES/EBU 接続時 16 to 24 bits
DSD サンプリング周波数:	2.8224 to 11.2896MHz (USB 接続時のみ)
入力:	AES/EBU(XLR)、S/PDIF(RCA)、光 デジ タ ル (Toslink)、Bluetooth USB (タイプ B)、同軸デジタル (RCA)、ライン (RCA)
出力:	ライン (XLR)
出力電圧:	2.7Vrms (0dBFS ノーマルモード XLR-RCA アダプタ使用時) 5.4Vrms (0dBFS ハイモード XLR-RCA アダプタ使用時) 5.4Vrms (0dBFS ノーマルモード XLR 出力時) 10.8Vrms (0dBFS ハイモード XLR 出力時)
出力インピーダンス:	100 Ω (XLR-RCA アダプタ使用時) 200 Ω (XLR 出力時)
THD+N:	0.0008% (1kHz, -3dBFS XLR 出力時) 0.003%(1kHz, -3dBFS XLR-RCA アダプタ使用時)
SNR:	120dB (XLR 出力時) 116dB (XLR-RCA アダプタ使用時)
ボリューム:	0dB to -96dB 0.5dB ステップ
ミューティング:	-20dB
LR バランス調整:	+/-6dB 1dB ステップ
位相切り替え:	正相 (0°)、逆相 (-180°)
自動電源オフ:	10 to 240 分 10 分ステップ、無効化
消費電力:	15V, 300mA
DC ジャック径:	5.5/2.1mm、センタープラス
サイズ:	200(w)x50(h)x200(d)mm
重量:	2.0kg